

## 信州環境カレッジ交流会の概要

- 1 日 時 令和元年6月2日(日) 13:00～16:30
- 2 場 所 小諸市市民交流センター
- 3 出席者 信州環境カレッジ講座登録者、環境保全団体、行政等 51 名
- 4 内 容

### (1) 講演会

演題 「持続可能な地域づくりに向けた ESD と SDG s」

講師 立教大学 ESD 研究所長・ESD 活動拠点支援センター長 阿部治氏

要旨

- SDG s を達成するための担い手づくり・人づくりが ESD(持続可能な開発のための教育)
- 地域創生の課題である、誇りの回復、自立・自律・自治力の強化、市民力の育成などに  
対し、地域学、自然学校、エコツーリズムなど ESD を通じた担い手を育てることが重要
- ESD による地域創生の視点として
  - ・多様な資源（人的資源を含む）の「見える化」による再認識と地域住民の誇りの回復
  - ・子ども・若者の参加、大学生・高校生などの活躍の場の創造
  - ・地域資源に見える化・つなぐ化に果たす学校の役割の再確認
  - ・つなぎ役としてのコーディネーター(機能・組織・人)が重要 など



### (2) ワークショップ

ファシリテーター 松本大学総合経営学部准教授 中澤朋代氏

8つのグループごとにグループファシリテーターを決め、以下の8つのテーマを割り振った。参加者は自分の議論したいグループに参加し、途中で入れ替えを行った。

最後に、グループファシリテーターからワークショップで出た意見について報告していただき、信州大学教育学部特任教授渡辺隆一氏から全体の講評をいただいた。

- テーマ
- 1 カレッジの中間報告
  - 2 環境カレッジのアイデア
  - 3 こんな講座があったらいいな(大人向け)
  - 4 こんな講座があったらいいな(親子・若者向け)
  - 5 学校とつながる方法
  - 6 学校とつながる留意点
  - 7 イベント実施の留意点(安全・体制)
  - 8 募集方法・参加者を増やす



グループごとに出た意見（まとめとして模造紙に書かれた意見）は以下のとおり

#### 【1 カレッジの中間報告】

- ・新コース設置を。
- ・地域講座をシリーズに。（諏訪湖）
- ・教員研修にプログラムを！
- ・学校サポートを考える
- ・県環境基本計画 2018～2022(5年間)
- ・県の政策に繋げる
- ・申請しにくい
- ・わかるHPを
- ・地域と学校を繋ぐ
- ・地域情報を集め提供



#### 【2 環境カレッジの利用アイデア】

- ・環境という言葉がアピールしない。
- ・活動していることをもっと知ってもらう。
- ・身近な活動と関連付ける。
- ・自治会活動と協力すればよい。
- ・広報活動の利用をしたいが効果があるか疑問。
- ・環境カレッジの担当は環境政策課と決めていて、横のつながりが弱く教委は知らないやりたくない。
- ・行政・企業にも登録メリットを！
- ・教育委員会へのPRが必要。
- ・学校のニーズを把握する。
- ・学校の先生が目にとめてくれる発信。
- ・各方面に連携をとるためネットワークが必要。
- ・学校へのPR。松本市はPRや報告は環境政策課が行っている。
- ・企業とのコラボ。
- ・エリア毎に充実できる工夫。
- ・CSR
- ・団体への情報をもっと魅力的に出せると良い。
- ・ネットワークがもともとあると安心して学校は頼める。
- ・市町村の環境政策課への協力依頼が有効。
- ・市だけでは予算が足りない。大規模校では講座がやりにくい。資金面から人手が必要。



・地域貢献→SDGs—（物づくりとIT、環境）

### 【3 こんな地域講座あったら（大人向け）】

- ・教え方を学ぶ講座
- ・実利につながる講座
- ・ネットワークをつくる講座
- ・各団体がしあう講座
- ・核になる人を育てる講座（つなぐことができる人）
- ・若い人は忙しい（実体験不足）
- ・開発と自然保護講座（対立ではないことを知る講座）
- ・地域の環境についての講座（講座のシリーズ化することで全体像がわかる）
- ・政策に繋がる力をつける講座（政策提言と動く仕組みづくりのための講座）
- ・SDGs 17テーマに基づくイベント（市民・行政・企業も併せ大きくやってもらい市民がそれに乗っか



ていく)

- ・時流にのった見せ方新しさを演出する（古くて新しいテーマ）
- ・昔の写真を切り口に多くの世代人に共通点がある。
- ・実物を見せる
- ・講座をやっていくのにどんな事に注意しなくてはいけないか。
- ・多くの人に響くホットな話題
- ・マスコミ・メディアの協力を得る仕組みづくり
- ・あきらめずに継続する

### 【4 こんな講座があったら（親子・若者向け）】

- ・実践で見てみたい（これが基本）
- ・我々は自然の中で育っている。地域の良さ。
- ・伝えるべきことを伝える。暮らしている人が感動していること。
- ・体験の裏にあること→自分の目で知る。
- ・自然と社会に目を向けて
- ・とつきづらい・身近に最近起こっていること。
- ・子育てサークル→ママさんネットワーク→家に帰ってから話が続く→広がり
- ・エシカル、暮らしの中から、くらしのレベル
- ・地域のことを考える。
- ・環境教育に反開発というイメージ
- ・自然観察会・小学校とタイアップ
- ・地域も未来と繋がっている。バックキャストिंग
- ・地域の事を考える。



## 【5 学校とつながる方法】

◎学校と団体との間に壁がある。

### ○学校の現状

- ・学校先生がこういう場に来ない。
- ・先生も生徒も忙しく繋がり方がわからない。
- ・教委を通して情報を提供するしかない。
- ・教委を通してなかなかつながらない。
- ・ハードルが高い。転勤も多い。時間もない。
- ・教委に言ってもダメならどうしたら。
- ・チラシを配っても見てもらえない。
- ・校長会におろすと声がかかることがある。

### ○団体の現状・努力

- ・自分たちからハードルを下げる。
- ・個別に先生方とも企画相談が来る。強味として地域のことを知っている。
- ・安全なやりかた誰でも参加できることをP R。
- ・学校先生を団体の仲間に巻き込んでいる。
- ・信大の学生らと一緒に取組むと学校からも注目。
- ・つながりを継続させる後継者が必要。育てないと。

### ○地域の力

- ・コミュニティースクールの一環で町を知ってもらおう講座。
- ・P T Aなどの繋がりから依頼が増えている。
- ・現場の先生と交流したい。
- ・学校側のニーズを知る。
- ・公民館との繋がりも良いきっかけ。
- ・地域との繋がり。
- ・P T A・おやじの会などに学校を引出す。
- ・先生方と交流する機会をつくってほしい。
- ・地域との繋がりを深めると先生との繋がりが生まれる。
- ・夏休みこどもチャレンジを利用してね！
- ・学校の先生にこの仕組みを知ってほしい。
- ・出前授業（キッズエコツアー）を受けている。県・市の取組に協力。
- ・中信 ee の知合いの先生と繋がりができている。
- ・地域コーディネーターする人を育てる。（拠点）
- ・現場の先生にもっとアピールする。



- ・ボランティア団体としては有益な制度。
- ・HPも結構面白い。人の動きが分かる。
- ・繋がりだけでなく伴走者がほしい。（地域と学校を繋ぐ）

## 【6 学校とつながる留意点】

### ◎ 課題

- ・学校とつながるルートはどうやって作っていったらいいのか。
- ・学校がどの位地域の活動を知っているのか。
- ・観察会、出前講座なども先生が異動すると、と切れてしまう。
- ・学校で作る年歴の中に位置づけられると繋がり継続できる。
- ・学校に早いうちから連絡するが予定に入れてもらえない。
- ・課題の中で、学校でやってきたが地域の活動として繋がりを作っていくことが、いずれ学校に広まっていって良い。
- ・信州型コミュニティースクールが始まっている。地域と一緒に学校をつくっていこうという中で、学校にお手伝いに行くというスタンスでやっていく。
- ・学校も総合的な学習時間に理科や社会など地域の方の活動情報を求めている。地域で活動しているが学校に知ってもらっていない。
- ・環境カレッジの取組もそんなところで大事になってくるのかなと思っている。
- ・あそこで、この様な活動をしている人が居ますと、学校でつながっていると学校の中でも繋がっていく。



## 【7 イベント実施の留意点（安全・体制）】

- ・急な変更など連絡体制
- ・役割り分担（責任者）
- ・ボランティアの協力
- ・参加者人数、各係の担当
- ・ボランティア団体だからという甘え。
- ・ボランティアがなかなか集まらない。
- ・参加者募集に苦労。
- ・経済性
- ・マニュアルの作成 A4 版 1 枚
- ・自然を利用した演出
- ・内容の変化・同一の発展（ターゲット）
- ・オーバーユースで荒れる。（同じ場所）
- ・ポスター作製。
- ・イベント内容の企画、考えさせるイベント、・盛り上げる内容
- ・イベント企画、自主性確保



- ・アンケートの実施（実施前、実施後）
- ・体験できることがメリット
- ・託児、小学生
  - ・保険の加入・夜間の安全
  - ・危ない場所の確認→野生動物に対する対策→クマ用スプレー→ハチに刺された時のキット
- ・自然の知識が安全性を高める。（下見をする）
- ・自分の身を自分で守るための方法を知る。
- ・見守る事の難しさ。
- ・リスク管理マニュアル。休日の病院を調べておく。

## 【8 募集方法・参加者を増やす】

### ○地域

- ・自治体回報への掲載（市町村の広報）
- ・町の広域放送が最強。
- ・公民館活動へ広げる。
- ・町会の回覧板での広報、町内会行事に便乗
- ・時間制限を30分以上としてほしい。
- ・普段参加しない人、目的によっては他のイベントに出かけていく。
- ・感心の高い人が集まるが、それ以上なかなか広がらない。
- ・過去の参加者へメールで呼びかけ、口コミ。
- ・遊びを付加する
- ・弁当を配る

### ○学校

- ・早めの調整
- ・カレッジ→学校へ情報を（チラシなど）
- ・学校の先生が環境カレッジのことを知らない。
- ・特定の人やテーマに限定されるように感じる。
- ・学校から広げる糸口
- ・先生との個人的つながりを大切に。
- ・楽しいことをPR

### ○その他

- ・各イベントで他団体イベントの宣伝もできれば。
- ・動画で記録していつでも観られるようにする。
- ・SNS等
- ・広報活動の仕組みがより強く必要。



- ・審査に漏れたことは……
- ・広報活動予算が必要
- ・チラシもメリハリを
- ・参加して欲しい人に分かり易く。
- ・タイムリーなテーマ、キャッチーのテーマで。